老年看護学演習における紙おむつ装着体験の学習効果

煙　山　晶　子[1]・小笠原　サキ子[2]

は　じ　め　に

老年看護学は，ライフサイクルの最終段階である老年期の人(以下高齢者とする)を対象に，加齢による心身への影響を考慮しながら，その人の意志や希望を尊重した看護を追究する。中でも排泄障害への援助を学ぶ事は，高齢者を取り巻く様々な要因を含むため，大変重要である。これまでにも講義及び演習によって，対象の理解を促す試みが報告されている[1-2]。今回，著者らは学内演習の実施に加えて，自宅で紙おむつを着用するという課題を提示し，紙おむつを装着する事，水を吸水させた紙おむつを装着する事で排尿後のおむつの状況を擬似体験し，学生が高齢者に対しての援助内容を見い出す事ができるのではないか，と考えた。今回は，紙おむつ装着体験を導入した演習の学習効果について検討を加えたので報告する。

I　老年看護方法論における『高齢者の排泄・排泄障害』『失禁・排泄に関する看護演習』の位置付け

1.　科目名　　老年看護方法論

2.　開講時期　2年次後期（2004年度）　2単位30時間

3.　科目の目的

高齢者とその家族を対象に，健康レベルの回復や生活機能の維持・拡大を援助するための看護方法について理解する。

4.　科目の到達目標

1)　加齢に伴う機能低下や疾病，治療が，高齢者の生活にどのような影響を与えるかについて理解し，説明する事ができる。

2)　「嚥下障害のある高齢者がむせないで摂食できるための援助」「尿失禁のある高齢者が気持ちよく過ごせるためのおむつの着脱と保清」の意義を理解し，実践できる。

[1]秋田大学，[2]東北福祉大学

3)　終末期について老年患者と家族への援助方法と看護師の態度について説明する事ができる。

4)　老年期の特徴的な症状，疾患を持つ患者に対する観察点，アセスメント，看護援助の方法を選択し，説明する事ができる。

II 『高齢者の排泄・排泄障害』に関する講義と演習の進行

1.　講義内容

『高齢者の排泄・排泄障害』として，加齢に伴って起こりうる変化と排泄障害について90分講義した。内容は，1）自立した排泄行動に対する看護の方針，尿失禁の分類と要因，原因，2）高齢者の排泄機能の特徴，失禁が生活におよぼす心身・社会的な面への影響，3）排尿のチェックや排尿動作の把握による尿失禁のアセスメント，4）尿失禁のある高齢者への援助，(1）排尿誘導・排尿介助，(2）陰部・臀部の清潔の保持，(3）排尿用具の工夫について，である。

2.　演習の目的

排泄に関する演習は講義から2週間後に行った。演習の目的は，① 対象の活動と失禁の状態に適したおむつの種類を知る。② 臥床している状態での，おむつの装着を体験する。③ 実際におむつを装着し，自尊心への影響や活動制限を最小限にするための援助を考える，である。

学生には事前に演習の要領を示した。演習の目的 ① と ② は学内の演習（以下，学内演習とする）で，③ は自宅での体験学習（以下，自宅体験学習とする）とした。

3.　演習の方法

1)　学内演習

おむつの装着体験は学生2人組で行い，学生の組み合わせは，事前に学生の了解を得て授業担当者が構成し，同性同士の組み合わせとした。おむつ装着の介助を体験するのではなく，おむつの装着を体験する事に重点をおいて進めた。

学生1名におよそ15分の時間を配分した。衣服の上から装着する他に，水を吸水させ，紙おむつ内部の様子を観察する，断面を見るなど関心を示した事は自由に実施させた(図1-1，図1-2)。

(1)　演習内容

① 紙おむつがどのような構造になっているか，グループで意見交換する。

② ベッドに臥床した状態で，紙おむつ及びおむつカバーを用いた布おむつを装着する。

③ 立位，座位での装着感はどうか，活動への制限がないか，お互いに意見交換する。

(2)　意見交換した内容を以下の視点で，所定の記録用紙に記述するように指示した。

① おむつの構造で気がついた事

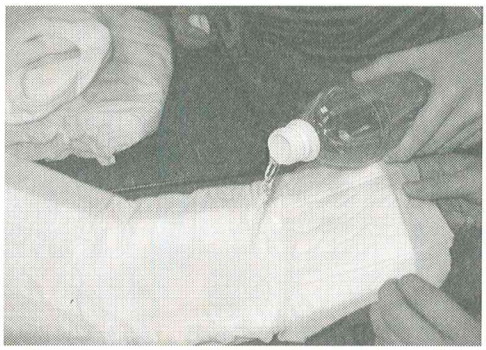

図 1-1　学内演習の状況

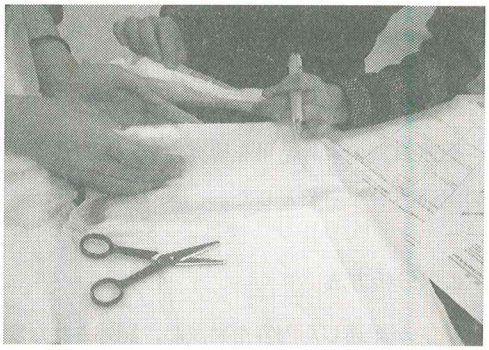

図 1-2　学内演習の状況

② おむつの装着で気がついた事

③ 臥床から立位，坐位，体を動かして気がついた事

(3)　学生の服装

当日は，おむつを装着するのに支障がないように，トレーナー，トレパンなどの服装で臨む事とした。

2)　自宅体験学習

(1)　演習内容

自宅体験学習は課題提出までに 8 日間の時間を与えた。課題を実施するにあたって，学生の心理的な抵抗感や健康上の理由に配慮し，課題ではあるが強制するものではなく，実施できなかった場合にはその旨を記載するように説明した[3]。

学内演習終了後，紙おむつ（成人用，テープ止めタイプ　サイズ S・M・L）を 1 枚ずつ持参させた。目安として各おむつのサイズを掲示し，各自が自分の体型に合わせて選択できるようにした。持ち帰りは不透明のビニル袋を用意し，扱いに注意するように指示した。

自宅で体験するように指示した課題は次の 2 つである。

課題 1：自分の体型に合った紙おむつを用いて，実際に装着してみる。

課題 2：400 ml 程度の水を吸収させて，装着してみる。(今回使用した成人用おむつは 600 ml までの尿の吸収が可能)

(2)　体験から学んだ内容を以下の視点で，所定の記録用紙に記述するように指示した。

① 課題 1，2 を体験して感じた事

② 陰部の清潔，排泄物の処理，皮膚の観察の必要性について考えた事

③ 自尊心への影響，活動制限を最小限にするための援助について，どうしたらいいか考えた事

III　集計と分析

1.　分析対象

記述資料の集計結果を研究対象として使用する事について説明し，了承を得る事ができた学生の記述内容を対象とした。

2.　分析方法

学生が記述した内容を熟読し，記述された意味内容の類似性に基づいて分類した。分類に関しては老年看護学の教育を専門とする2名で検討を重ねた。

3.　倫理的配慮

学生各自に集計結果を示し，結果の公表について口頭で説明し了承を得た。記述内容の抽出にあたって，参加した学生が特定できるような表現は避けた。

IV　結　　果

演習に参加した68名の学生のうち，同意の得られた学生は67名であった。

(1)　学内演習

① おむつの構造で気がついた事（表1）

実際に紙おむつに触れ，気がついた事は【構造】，【表示】，【素材】，【機能】，の4つのカテゴリに分類した。【構造】には《マジックテープ》に関する事，「広く臀部の形に合わせた立体的な構造になっている」などの《足周りのギャザー》，《全体の構造》に関する記述を含めた。また【表示】には「前後がわかりやすい」などの《中心線，前後の区別》《色分け》に関する記述を含めた。また【素材】に関しては《柔らかさ》《厚さ》《軽さ》《強靱性》《におい，音》に関する記述を含めた。【機能】では《吸水粒子》《吸水力》に関する記述を含めた。

② おむつを装着して気がついた事（表2）

衣服の上から紙おむつを装着してみて気がついた事は【外見】【マジックテープ】【装着の援助の必要性】【体に適した装着のしかた】の4つのカテゴリに分類した。「体のラインがでる洋服などでおしゃれできない」などの【外見】に関する記述が最も多かった。また「テープが外れるような気がする」という【マジックテープ】に分類した記述には，ウエストに合わせて装着するために「何度も調節が必要」だという記述があった反面，「何度でも調節できる」という記述もあった。さらに【装着の援助の必要性】には「ひとりで装着するのは困難」「坐位ではつけられない」という，使用者の状況を考慮した記述を含めた。【体に適した装着のしかた】には「適切な位置の決め方。どの位置においたらいいかわからない」について記述されているものを含めた。

表1　おむつの構造で気がついた事

カテゴリ	サブカテゴリ	記　述　例	記述件数
構　造	マジックテープ	何度もつけられるようなマジックテープがついている テープの粘着力がないので頼りない 粘着テープでなくマジックテープだった 対称につけられるように表示がされていた	41
	足周りのギャザー	もれ防止のギャザー 足周りの動きを制限しない	38
	全体の構造	背部まで吸収されるようになっていた 曲線で体に合う 広く臀部の形に合わせた立体的な構造になっている	15
表　示	中心線，前後の区別	体に合わせて装着できるように中心線が入っている 前後がわかりやすい	23
	色分け	尿を吸収する部分の色が違う	5
素　材	柔らかさ	やわらかい	21
	厚　さ	薄いが必要な部分は十分に厚い 思っていたより薄い	17
	軽　さ	思ったよりも軽い つけた感じがしない	7
	強靱性	伸びがない 背当てが破けそう	5
	におい，音	臭い対策の香り	13
機　能	吸水粒子	細かい粒子がゼリー状になって水を吸っていた	11
	吸水力	吸水性がよく吸水させても表面はさらさらしていた	5

計 201

表2　おむつを装着して気がついた事

カ テ ゴ リ	記　述　例	記述件数
外　見	ゆとりのある服が必要 見た目がよくない 体のラインがでる洋服などでおしゃれできない	11
マジックテープ	テープが外れるような気がする 何度も調節が必要　　何度でも調節できる	14
装着の援助の必要性	ひとりで装着するのは困難	14
体に適した 装着のしかた	中心を合わせ易い 仰臥位の方がつけ易い 坐位ではつけられない　立位だとはきにくい 仰臥位で装着するより側臥位のほうがいい どの位置においたらいいかわからない	10

計 49

③ 臥床から立位，坐位，体を動かして気がついた事（表3）

臥床では「問題ない」という記述もあったが，腹部や背部にすき間を感じていた。坐位では「股間におむつがたまる」という記述が多く，坐位になった際に臀部に違和感を感じているようであった。立位では臀部や腹部にすき間が感じられ，立ち上がった際に体のラインとのズレが生じている事を実感していた。その他の体位や動く事で生じる支障は，おむつの幅がかさばる事による足への圧迫感，足が閉じられないという記述が目立った。

表3　臥位から坐位，立位へ体を動かして気がついた事

カテゴリ	記述例	記述件数
臥床	すき間ができる（腹部，背部）	2
	問題ない	4
坐位	股間におむつがたまる	11
	すき間ができる（臀部）	9
	ごわごわする	2
	テープが緩む	1
	問題ない	1
立位	すき間ができる（臀部，腹部，背部）	12
	足が開く	6
	立位になった時に下がってしまわないか不安だった	3
	股関節が違和感	3
	擦れる　ごわごわする	3
	テープが取れそう	1
動く事で生じる事	足に圧迫感・おむつの幅がかさばる	17
	テープが取れそう（寝返り，しゃがむ）	8
	足が開く，足が閉じられない	7
	股関節が擦れて痛い	4
	すき間があるので動くと広がる	4
	音が気になる	3
	側臥位では股間にしわができる	3
	動くと熱くなる	1
	問題ない	11
		計 116

(2)　自宅体験学習

① 課題1：自分の体型に合った紙おむつを用いて，実際に装着して感じた事

実際に紙おむつを装着した感想は，体験した67名から149件抽出された。肯定的な内容の記述が25件，また不快を表現した記述が124件あった（表4-1，表4-2）。

肯定的な内容の記述は，【感触がいい】【体を包んで安心】【自然で違和感を感じない】【保温性がある】【装着の方法香りがある】であった。

表 4-1　実際におむつを装着して感じた事：肯定的記述

カ　テ　ゴ　リ	記　　述　　例	記述件数
感触がいい	乾燥しているとふかふかして気持ちいい	8
体を包んで安心	下腹部から腰を包むので安心できる	6
自然で違和感を感じない	下着と同じ感じだった　着衣をしても自然に感じた	5
保温性がある	臀部を包むため温かい	4
装着の方法	立位で装着した方がフィットする	1
香がある	香がある	1
		計 25

表 4-2　実際におむつを装着して感じた事：不快を表現した記述

カテゴリ	サブカテゴリ	記　　述　　例	記述件数
活動に関する事	動きの制限	歩行がぎこちない　　足が閉じられない	24
	体に合わない	ウエストがゆるいとすきまができて腹部が冷える	21
知覚した事	肌への刺激，肌触り	ちくちくしたごわごわした	22
	厚みによる違和感	足の付け根に圧迫感を感じた	7
	蒸れる，かゆみ	長時間装着していると蒸れてかゆみを生じた	7
	音	動くたびに音がした	3
	臭い	おむつのにおいが気になる	2
	違和感	違和感を感じた	3
おむつ着用による不安	脱落の不安	テープが外れるのではないかと心配	6
	おむつを着用することへの抵抗感	抵抗があり，恥ずかしく知られたくないと思った	6
	漏れることへの不安	もれるのではないかと不安だった	4
衣服や外見への影響	衣服が制限される	ゆったりした衣服でないと着衣しにくい	9
	装着に援助が必要	ひとりで装着するのは難しかった ウエストを何度か調節する必要があった	7
	外見がよくない	着衣しても外観が変化し恥ずかしい	4
			計 125

不快を表現した記述内容は，【活動に関する事】【知覚した事】【おむつ着用による不安】【衣服や外見への影響】の 4 つのカテゴリに分類された。【活動に関する事】では，さらに歩行や動作の支障となるなどの《動きの制限》について，ウエスト部分にすきまができて腹部が冷えるなどの《体に合わない》が抽出された。また，【知覚した事】に関しては，おむつを着用した感触に関連した内容で，直接触れる事で「ちくちくとした」などの《肌への刺激，肌触り》について，おむつが体に添わない事で感じる《厚みによる違和感》，装着しているうちに蒸れてきた，かゆみを生じた，などの《蒸れる，かゆみ》，動くたびに音がした，という《音》について，おむつのにおいが気になる，という《臭い》についてであった。さらに，具体的な内容は記載されていないが「違

和感を感じた」と表現していた《違和感》があった。【おむつ着用による不安】としては，「テープが外れるのではないかと心配」という《おむつの脱落の不安》，「抵抗があり，恥ずかしく知られたくないと思った」という《おむつを着用する事への抵抗感》，《漏れる事への不安》だった。さらに，【衣服や外見への影響】として，「ゆったりした衣服でないと着衣しにくい」などの《衣服が制限される》，着用するにあたり，体に合わせた着用に苦労を感じ，「ひとりで装着するのは難しかった」などの《装着に援助が必要》，《外見がよくない》だった。

② 課題2：400 ml程度の水を吸水させて，装着し感じた事（表5）

水を吸水させて装着し感じた事では，「ぐにゃぐにゃした感じが気持ち悪い」などの【肌触り】に関する事，「下に引っ張られているような気がする」などの【重さが気になった】，「冷たく感じ肌寒くなった」などの【冷たさ】，「重くて動けなかった動きたくなくなった」などの【水分を吸収する事で起こる活動の制限】，「水の吸収が早い」「坐位や臥位では圧迫されてしみ出してくる」などの【おむつの構造や機能で気づいた事】に関する事であった。

今回の課題では学習課題として指示しなかったが，実際に排尿を体験した学生は4名いた。「尿の湿気，暖かさの不快感に関して」「排尿後の尿の重みに関して」「おむつの吸収への不安」「動きの制限による活動意欲の低下に関して」「排尿時の尿の流れを感じた事による不快」に関して記述していた（表6）。

表5　紙おむつに水を吸収させて装着し感じた事

カテゴリ	記述例	記述件数
肌触り	肌触りが気持ち悪い ぐにゃぐにゃした感じが気持ち悪い	44
重さが気になった	下に引っ張られているような気がする 立位では落ちるような気がした	40
冷たさ	吸水した部分が冷たく不快であった	21
水分を吸収する事で起こる活動の制限	重くて動けなかった動きたくなくなった	15
構造や機能で気づいた事	吸収が早い　坐位や臥位では圧迫されてしみ出してくる	6
		計 126

表6　実際に排尿を体験してみた学生の記述内容

カテゴリ	記述件数
尿の湿気，暖かさの不快感	3
排尿後の尿の重み	2
おむつの吸収への不安	1
動きの制限による活動意欲の低下	1
排尿時の尿の流れを感じたことによる不快	1
	計 8

③ 陰部の清潔，排泄物の処理，皮膚の観察の必要性について考えた事

ほぼ全員が，高齢者の皮膚，陰部の皮膚の特徴を捉え，短時間での交換や観察の必要性について記述していた。

④ 自尊心への影響，活動制限を最小限にするための援助について，どうしたらいいか考えた事（表7）

自尊心の尊重，活動性の自立に向けた援助について考えた事として記述されたものは，以下の【おむつ使用に際して感じた事】【援助する際の留意点】【自立を妨げない援助の必要性】の3つのカテゴリに分類した。

【おむつ使用に際して感じた事】に関しては，「排泄の援助を受けるという事の恥ずかしさを理解して援助する」などの《羞恥心への配慮》，「できていた事の援助を受ける事によって今後に対する不安や喪失感がある事を理解する」などの《高齢者の心理の理解》，「おむつのマイナスイメージを軽減させる」などの《マイナスイメージを軽減させる》，「おむつの交換を援助される事への

表7　自尊心への影響，活動制限を最小限にするための援助について考えた事

カテゴリ	サブカテゴリ	記　述　内　容	記述件数
おむつ使用に際して感じた事	羞恥心への配慮	排泄の援助を受けるという事の恥ずかしさを理解して援助する	10
	高齢者の心理の理解	できていた事の援助を受けることによって今後に対する不安や喪失感があることを理解する　負担感への配慮	11
	マイナスイメージを軽減させる	おむつのマイナスイメージを軽減させる	6
	安易なおむつの使用を避ける	看護の時間的都合で安易におむつを使用することがないようにする	3
援助する際の留意点	適切なサイズや素材	活動範囲に適したおむつの選択	27
	外観，服装への配慮	外観からもおむつをしているとわからない服装を選ぶ	21
	態度，言動，動作	汚いなどの言葉を用いない	20
	短時間で確実に交換する	活動の制限を最小限にするために装着する時間を短時間にする 抵抗感をなくすように言動に注意し短時間で行う	16
	環境への配慮	露出を避け環境を整える	1
	関係性を大切にする	排泄できることを喜び合える関係づくり安心感を提供する	5
自立を妨げない援助の必要性	援助の程度	交換の際にもできる事は本人にしてもらう 自分で確認しあいながら援助する	26
	目標の設定 排泄パターンの把握	排泄のパターンをとらえ早期に排泄物を処理することが必要 トイレで排泄する方針	23
	自立を妨げない装着の援助	鼠蹊部に当たる部分を少なくして歩行に支障を来さないようにする	3
	音，臭い	漏れ，音，臭いなどのへの不安を除去する援助	4
	外出に際して考慮した事	外出先で交換する事ができるような設備が必要 外出の際に持ち運びやすいものを選択する	2
			計 188

負担感への配慮」などの「遠慮しがちな高齢者に対して援助する側が察する」,「看護の時間的都合で安易におむつを使用する事がないようにする」などの《安易なおむつの使用を避ける》,【援助する際の留意点】では「活動範囲に適したおむつの選択」などの《適切なサイズや素材》,「外観からもおむつをしているとわからない服装を選ぶ」などの《外観，服装への配慮》,「汚いなどの言葉を用いない」などの《態度，言動，動作》,「活動の制限を最小限にするために装着する時間を短時間にする」「負担をかけているという抵抗感をなくすように言動に注意し短時間で行う」などの《短時間で確実に交換する》,「露出を避け環境を整える」などの《環境への配慮》,《関係性を大切にする》,《じっくり話を聞く》,《安心感を提供する》であった。【自立を妨げない援助の必要性】という視点からは,「交換の際にもできる事は本人にしてもらう」や「確認しあいながら援助するのがよい」などの《援助の程度》,《目標の設定》,「排泄のパターンをとらえできるだけ早期に排泄物を処理する事が必要」などの《排泄パターンの把握》,「鼠蹊部に当たる部分を少なくして歩行に支障を来さないようにする」などの《自立を妨げない》,《装着の援助》,「漏れ，音，臭いなどのへの不安を除去する援助」の《音，臭い》,「外出先で交換する事ができるような設備が必要」「外出の際に持ち運びやすいものを選択する」という《外出に際して考慮した事》についてであった。

V　考　　察

1.　おむつの構造について

学生は紙おむつの構造について，様々な視点から観察していた。記述された数で多かったのは，立体的である事，足回りにギャザーが入っている事，ウエスト部分が調整の可能なマジックテープである事，中心線が表示されていて装着する際の目安になる事などであった。これらは，紙おむつがどのような構造になっているのか，排泄に支障なく装着するにはどのようにしたらいいのか，など学生が興味を抱いた点ともいえる。一方で，紙おむつ自体の強靱さやウエスト部分のテープの密着度について疑問を感じている記述があったのは，紙おむつを用いて排泄をする事，十分に尿や便を受け止める事ができるだろうか，という不安や疑問が生じているものと推測する。学内演習では，興味をもった学生を対象に，紙おむつを切断して水が吸収体に吸い込まれていく様子を観察させた。単に紙が尿を吸い取るとイメージしていた学生にとっては，紙おむつが排尿，排便のために開発された衛生材料である事を実感できる場面であった。学生が紙おむつの構造で関心を持った部分，特にマジックテープの粘着力や，紙おむつ内部の構造，吸収体の働きの観察は演習内容として組み込み，排泄物（水）が固形化される様子を確認させようと考えている。

2.　紙おむつの装着体験について

学生が紙おむつを装着して感じた事の中には，おむつが備えるべき条件として掲げられている，

① 吸水性に富む，② 通気性がある，③ 柔らかな肌触り[4]，が含まれていた。これらの特徴は手で触れるだけでなく，実際に肌で感じることでより実感される感覚である。その点で衣服の上から装着するだけでなく，実際の装着は有効だと考える。

衣服の上からでも，肌の上からでも共に，ウエスト部分のすき間があって尿もれしないか不安であった，という記述があった。高齢者の体型と青年期にある学生の体型では特に腰部において相違があるため，強調された可能性がある。

学生の中には衣服の上からであってもおむつをつける事に羞恥心を感じた事を記述した者やおむつをつける事で着用する衣服が制限される事から，紙おむつを装着した状態では，日常行っている外出や，対人交流に影響を与えるととらえていた。また臥床した状態で体に適していたおむつが，体動によってずれを生じ，腹部や背部，股関節や陰部，臀部に圧迫や違和感，痛みなどを感じていた。今回はテープ止めタイプのおむつを用いて，装着体験，排尿の擬似体験を行った。腰部全体を覆うタイプのおむつは，主に夜間や臥床している人を想定して作られたものであり，今回の学内演習で体験した，臥位から坐位，さらに立位，歩行という動きにはあまり適していない。活動や外出の制限が起こりうる，という状況を理解した上で，日常生活に支障を来さないような製品について，そのメリットやデメリットを知った上で選択ができる事を目標に演習内容の組み立てを考えている。

今回はおむつを装着する事の援助に重点をおかなかったが，学生は援助者の視点でも記述している点があった。例えば，どのように中心線を合わせるか，ベッド上にどのように紙おむつを置くと体に合わせた装着ができるか，装着時の体位など確実にかつ安楽な装着を援助するにはどうしたいいか考えていた。以上のことは，これまで学習したベッドメーキングや寝衣の援助に関する看護技術の視点が生かされている。演習の実施時期は2年次後期であり，他の専門科目の授業進行と相俟って，看護の場面で活用できる看護技術として，意味付けする能力を引き出す効果があると考えられる。

3. 水を吸収させて装着した場合

最も記述が多かったのは，吸水した吸収体による肌触りによる不快であった。また吸収体の重さでおむつが落ちるのではないか，という心配も生じていた。そのため体の動きが緩慢になり，動きが止まるという事も実感していた。他者から排泄の援助を受ける事はなかなか言い出しにくい事でもあるが，『微妙なサイン』を捉え，交換するまたは排尿誘導するタイミングを図るためには生かす事のできる体験であったと考える。

自宅体験学習では実際に排尿する事は指示しなかったが，数名の学生が持参したおむつを用いて排尿を試みていた。記述内容には，排尿までの過程で感じた躊躇や周囲に人がいなくても羞恥心を感じた事を記述しているものもいた。しかし，水を吸水させたおむつの装着を体験した学生たちの記述と，ほぼ重複する内容である。実際に排尿した学生が特徴的に記述していた内容は，排

尿時の尿の流れを感じた事による不快に関したものであった。したがって，おむつに吸水させて装着する事で，十分に排尿した状態の対象の状況を想定する事が可能である，と考えられる。

4. 自尊心への影響，活動制限を最小限にするための援助

排泄障害を補うための衛生材料として，開発され，広く用いられている紙おむつを用いる事は，単に紙おむつによって排泄物を受け止めるだけではなく，心理的・社会的にも影響を及ぼすという事を多くの学生が感じていた。援助する際に必要な事として，羞恥心を与え，自尊心を傷つけるような言動を避ける事，そのためには短時間で確実な技術で交換する事や，自立を促進させる働きかけの必要性を掲げていた。加齢によって生じた排泄障害には，さまざまな原因があり，その程度や排泄の障害だけでなく複合している障害をも考慮していく必要がある。紙おむつの装着体験を通して，排泄障害に対する援助のあり方によっては，高齢者の身体的・心理的側面，社会的側面へ影響を与える事になることが，より理解できるものと考える。

おわりに

排泄という羞恥を伴う行為への援助には，援助される側にも援助する側にも，様々な感情が生じる。共感的な人は他者の気持ちと「共鳴」して傷つきやすいため，患者の否定的感情を単に体験するだけでは援助者の可動範囲を狭める可能性がある[5]，という指摘もある。援助する側の学生の羞恥心を過剰にあおる事なく，対象の理解と確実な技術を身につける事の必要性の認識を促す学習支援が必要である。

高齢者の排尿障害の援助方法について，① 対象の活動と失禁の状態に適したおむつの種類を知る。② 臥床している状態でおむつの装着を体験する。③ 実際におむつを装着し，自尊心への影響や活動制限を最小限にするための援助を考える，という目的で，学内演習，自宅体験学習を試み，今回は演習の効果について検討した。

学生は紙おむつの構造に関心を示し，衣服の上，さらに直接肌に装着する事で，紙おむつの肌触りや動きへの影響，衣服の制限などが必要になる事を実感していた。また，自宅体験学習として実施した，おむつの装着体験，および吸水による擬似体験では，吸水した部分の肌触り，重さ，冷たさなどを感じていた。実際に排尿を試みた学生の記述内容と重複する部分が多く，紙おむつを用いて排尿する体験に替わる演習方法として用いることができると考える。

付　　記

本稿の論旨は第15回日本看護学教育学会学術集会において発表した。

文　　献

1) 谷井康子，迫田綾子，他：看護実践能力を高めるための学内演習の実際：老人看護学，Quality Nursing 8(10)，38-45, 2002
2) 川瀬シズ，鼻野木晴美，他：問い続ける体験学習　排泄の授業展開の試み，看護教育 34(2), 108-113, 1993
3) 成田伸，石井トク：授業研究「体験学習」の文献的考察，看護教育 34(2), 91-100, 1993
4) 鎌田ケイ子，川原礼子：新体系看護学第 27 巻，老年看護学② 健康障害を持つ高齢者の看護，メヂカルフレンド社，2002, p. 59-60
5) マッケイ，R.C. ヒューズ，J.R.（川野雅資，長田久雄訳）：共感的理解と看護，医学書院，1991, p. 69